

都道府県警備業協会 各位

一般社団法人 全国警備業協会

重大労災事故事例 (No. 27)

(被災区分)

重傷


(被災者の属する企業)

所在都道府県	従業員数
北海道	150名

(被災者)

性別	年齢	経験年数	警備業関係取得資格	
男	53	14年9ヶ月	交通誘導警備業務2級	

(被災状況)

事故発生日時・天候	令和 6 年 11 月 27 日 (水) 午後 8 時 5 分頃 天候 曇
事故発生場所 (国・県道等の別)	北海道札幌市 道道453号線橋上
当事者	①被災警備員 ②同僚警備員
事故の概要	<p>交通規制を伴う道路舗装工事について、通行する方々へ周知するため、①は徒歩、②は作業車を運転し、①を追隨して工事看板に貼付されている「休工中」のマグネット表示を看板裏面に貼り替える作業を行っていた。</p> <p>①は、道道453号線の橋上で路側帯を歩いていた際、欄干(高さ約1m)の外側に歩道があると勘違いし、自ら欄干を跨いで乗り越え、高さ約7mの河川敷に転落したものの。</p> <p>その後、②は①の姿が見えないことから、現場周辺を探索したところ、橋の下で倒れている①を発見し、①は意識がある状態で救急搬送されたが、左肋骨骨折、骨盤骨折、脾臓損傷により全治3ヶ月と診断された。</p>
現場状況	
教訓事項	<ol style="list-style-type: none"> 関係者の作業状況を相互に確認し、作業状況に応じた注意喚起を行う。 作業前の打合せにより作業内容の確認及び予測される危険な状況等を全員が共有することにより安全作業への意識を高める。 管理者等による巡察の機会を増やし、教育内容が的確に実施されているか確認し、不備な点があれば確実に是正させる。

今後の対策	今回の事故を教訓にして所属警備員に対し、改めて安全業務を確保するための心構え、危険予知、安全確認の徹底等について指導教育を行う。
備考	